

経営比較分析表（平成30年度決算）

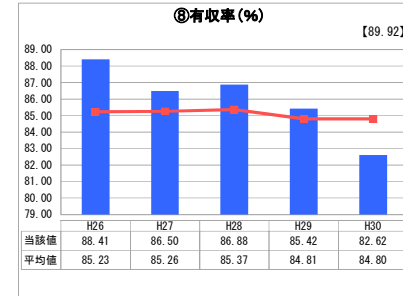
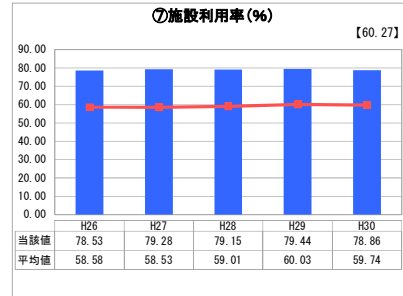
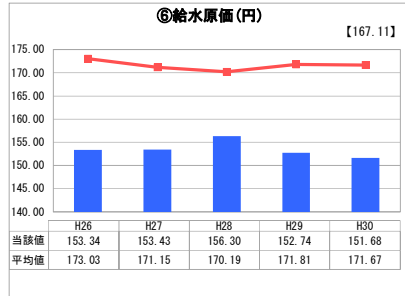
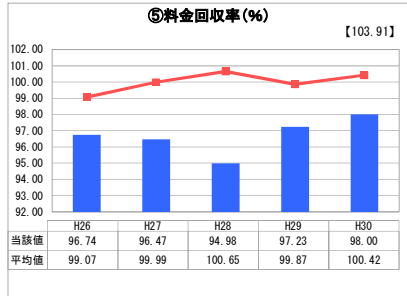
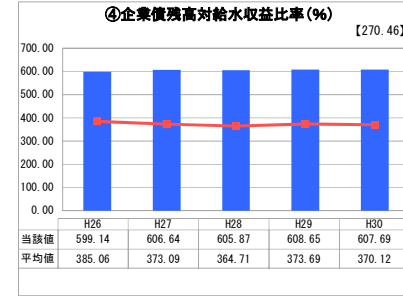
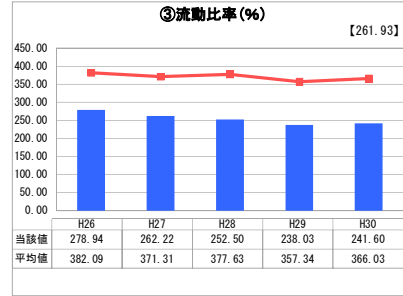
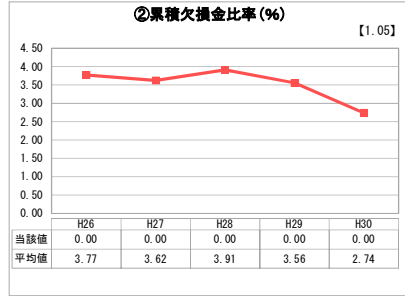
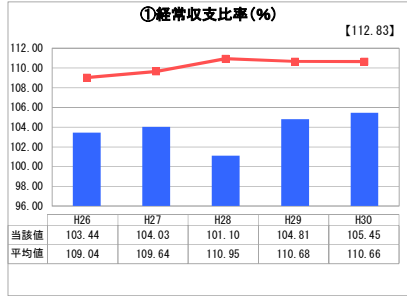
福岡県 岡垣町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A5	非設置
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金 (円)	
-	45.01	95.76	2,880	

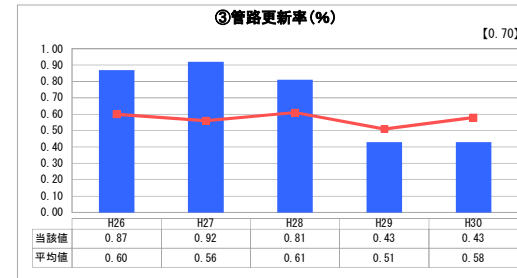
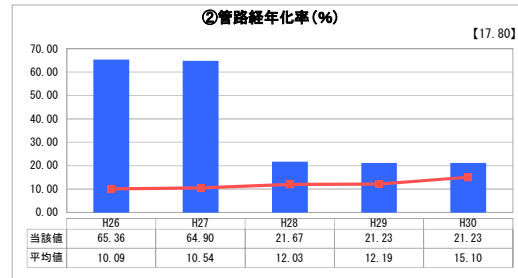
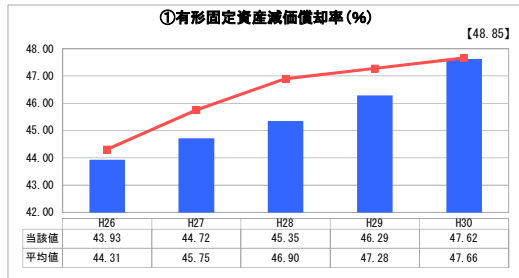
人口 (人)	面積 (km ²)	人口密度 (人/km ²)
31,812	48.64	654.03
現在給水人口 (人)	給水区域面積 (km ²)	給水人口密度 (人/km ²)
30,285	15.45	1,960.19

グラフ凡例
■ 当該団体値 (当該値)
— 類似団体平均値 (平均値)
【】 平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

岡垣町の水道の約85%は地下水で賄われており、類似団体等と比較しても、原価は低く抑えられている。

福岡県内の中でも比較的低い水道料金で、平成2年度より実質的な料金改定を行わず、効率的な経営に努めてきたが、経常収支比率は100%を超えてはいるものの、類似団体や全国平均と比べても低い状況である。

また、料金回収率も類似団体等と比較すると割合が100%以下となっており、適正な料金収入となっていないことから、今後の経営状況に応じて水道料金の見直し等を検討する必要があると考えられる。

有収率が類似団体等と比較して低い数値となっていることから、漏水箇所を早期に発見し、早急に対応する必要がある。

節水意識の向上や節水機器の普及、大口契約者の使用形態の変更や少子高齢化など、水道を取り巻く環境は大きく変化し、給水戸数が増加しても収益は減少していることから、今後も長期的な財政計画のもと経費の節減に努める予定である。

2. 老朽化の状況について

管路経年率は、管種・管材により評価し計画的に更新しているが、類似団体や全国平均と比較すると高い数値となっている。また、有形固定資産減価償却率も高くなっていることから、老朽化が進んでいると言える。

今後も引き続き、現有施設の健全性を適切に評価し、将来における資産の更新需要を把握しながら、重要度・優先度を踏まえた更新投資に取り組み必要がある。

全体総括

水道事業は昭和37年度から供用開始し、既に56年が経過している。管路経年率は全国平均を上回っており、施設の老朽化が進んでいる状況であることから、今後も更に更新投資額の増大が見込まれる。

しかし、給水収益は年々減少しており、経常収支比率も100%を超えているものの類似団体等と比較しても低い数値となっている。また、料金回収率も低い水準にあり、今後も各種経営指標の推移にも着目し、健全な経営に努めるとともに、水道料金の見直しを検討する必要がある。